

Statistical Room



出生数を上回る死亡数

この冬は例年になくとても寒い日が続きました。3月になり少しは和らぐかとは思いますが、まだまだ寒い日が続きます。体調管理に気をつけていきたいものです。

さて、今回は出生と死亡の面から人口増減について見てみたいと思います。厚生労働省では市町村長に届け出られる出生、死亡等から集計する人口動態統計を作成しています。□

図1は京都府における出生数と死亡数を表したものです。全国の傾向と同じく、平成16年までは出生数の方が多く、平成17年からは死亡数の方が多くなりました。□

次に、市町村別に見てみましょう。図2は平成元年の、図3は平成21年のデータを示したものです。

出生数より死亡数の多い市町村に着色をしてみました。市町村合併があったところは、平成21年現在の市町村にあわせて計算してあります。平成元年と比較すると平成21年には多くの市町村が出生数より死亡数の方が多くなっていることがわかります。

図1 出生数と死亡数の推移

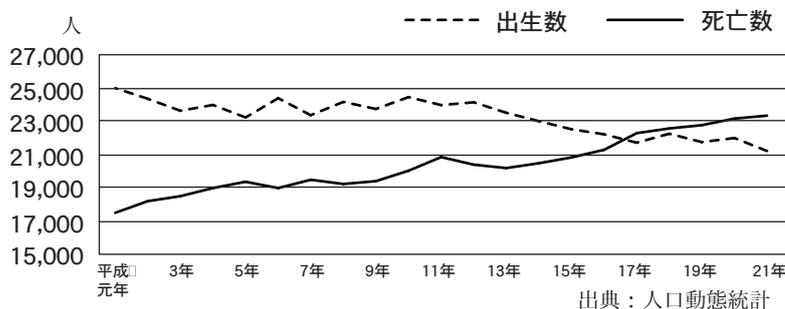


図2

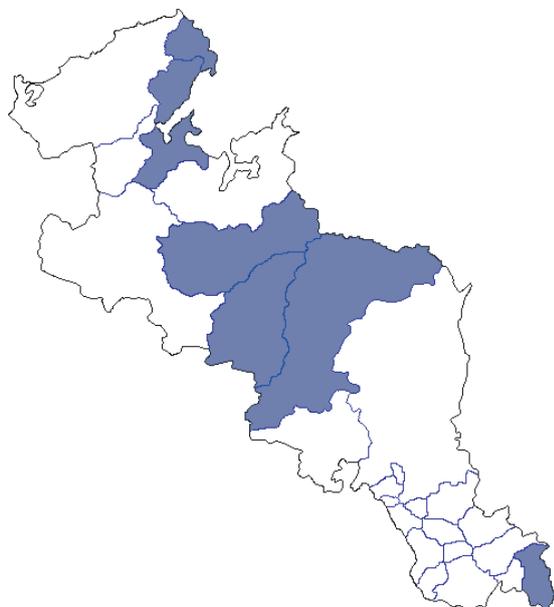
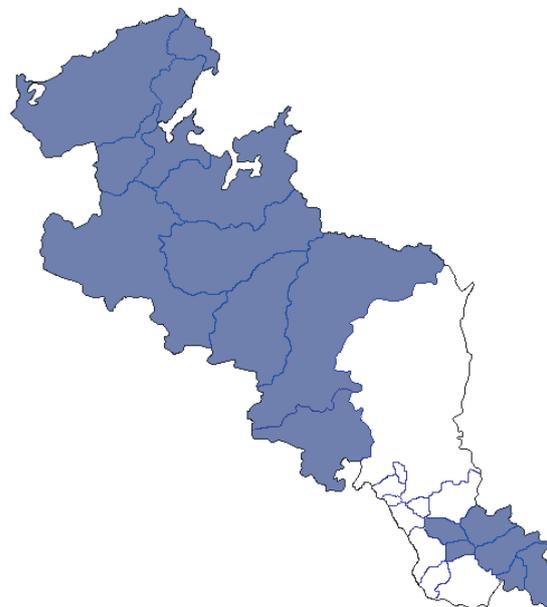


図3



少子高齢化社会といわれるように、これからも出生数より死亡数の多い状況は続いていくと思われます。地域社会が信頼の絆で結ばれ、つながり支え合う地域共生を実現させましょう。